

## 講義レジュメ

内容・テーマ	講師	奥山 清市
<u>地域課題解決・地域活性化に資する役割</u>	期 日	10月3日

## タイトル：地域の一員としての博物館活動の例

伊丹市昆虫館は連携・協働事業に力をいれており、友の会、ボランティア、市民団体、学校・教育委員会、地域商店街、地域自治会、近隣ショッピングセンター、郵便局、図書館、博物館、生涯学習施設、行政組織等、これまでありとあらゆる相手と連携をおこなってきた。

成果をあげている一方、連携は始めるのは容易いがたたむタイミングが難しく、労が増すばかりで当館の規模で対応可能なキャパシティはすでに限界に達していると感じている。継続し深化する事で真価を発揮する連携は多いが、余力が無くなり新たな事業に躊躇するという事になったら本末転倒だ。予算や人員には限りがある以上、連携事業の評価は常時行い、場合によってはスクラップ&ビルドを行う事が必要となる・・・ということをよくわかってはいるのだが。

その一方でこれまでの経験から、気負わず、無理せず、気楽に、楽しみながら、という「ゆるい」連携事業の方が、うまくいくように感じている。博物館が連携の“ハブ”ではなくチームの一員として参加する連携の方が、逆に博物館の持つ「専門性」を地域に活かすことに成功しており、博物館・地域コミュニティ両者にとって得るものが多いものとなっている。

本講義では、当館の連携事業の中での成功例である「鳴く虫と郷町」および「伊丹の自然絵はがき大募集」の紹介を通して、地域の活性化につながる博物館の地域連携のあり方について考えてみたい。

1. 伊丹市昆虫館について
2. 鳴く虫と郷町
3. 伊丹市の自然絵はがき大募集
4. まとめ

## 〔参考文献〕

坂本昇 (2009)地域連携、施設連携による事業の展開—鳴く虫と郷町.日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要 (13) : 27-33

野本康太、奥山清市、坂本昇 (2016) 郵便局と博物館—地域連携の事例と可能性.博物館研究51 (5) : 19-22